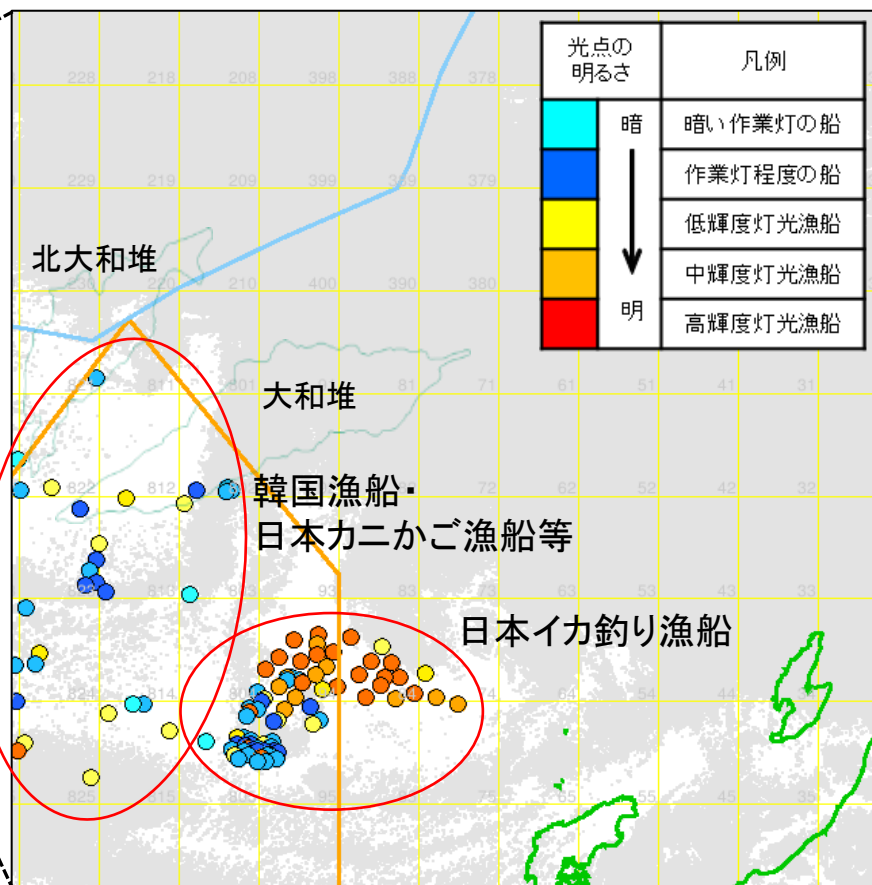
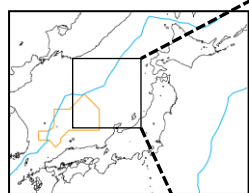


日本海大和堆周辺水域における外国漁船への対応状況について (平成30年漁期)

- 現在、大和堆周辺水域では、日本のイカ釣り漁船、カニかご漁船が操業しており、水産庁は引き続き、漁業取締船を配備し、海上保安庁と連携し、日本漁船の安全操業を確保しております。
- 11月下旬以降、我が国排他的経済水域の外側を含め、同水域で確認される北朝鮮漁船数は減少しており、現在、ほとんど確認されておられません。
- これまで水産庁が退去警告を実施した外国漁船は、本年5月から延べ5,311隻（本年当初からは5,313隻）であり、そのうち2,058隻に対して放水を使用しています。（平成30年12月6日現在）
- 水産庁では今後とも、漁業取締船を配備し、海上保安庁をはじめ関係省庁とも連携し、日本漁船の安全操業の確保に努めてまいります。

<12月1日の漁船等の状況>



・ 図中の○（丸印）は、夜間の衛星画像から光を抽出したもの（明るさの割合：水色<青<黄<橙<赤）で、操業中の漁船のほか、航行中の漁船や一般船舶も含まれます。明るさは、雲や月明かりの影響を受けます。

・ 目安として、水～青色（暗い作業灯～作業灯程度の船）は北朝鮮漁船（木造船）、日本カニかご漁船等、黄色（低輝度灯光漁船）は北朝鮮中型イカ釣り漁船（鋼船）等、橙～赤色（中～高輝度灯光漁船）は中国・韓国・日本イカ釣り漁船等の可能性があります。